浜嶋です。
おはようございます。

１月２６日にボーイスカウト豊中協議会主催の「危機管理セミナー」に吉田団委員、白崎副長と参加しました。

危機とは、団の運営の存続に関わる危険な状態になったり、隊活動において重大な事故を起こし、その対応がまずいなどの状況になることです。
その危機に備えた体制や役割を事前に準備することが求められているということです。
大阪連盟では、各団で整備できる危機管理マニュアルのひな型を公開しています。
２つの事例を考えてみてください。あなたはどうしますか？

１．隊集会でハイキングに行ったが、帰着時間が２時間過ぎても連絡が取れない。保護者が警察に通報し、捜索が始まった。その後ＴＶで「行方不明」のニュースが流れ、マスコミが団委員長の自宅に押しかけてきて説明を求める。
私、２団は、どのような対応を取るか？　取れるのか？
そのような対応を取るにあたって、何が足りていて、何が足らないのか。
「えー、そんなこと起きるの？」って感じですが、隊の動向を知らない私は、どうしたらいいでしょうか。

２．ジャンボリーの開催時期に、現地でマグニチュード８．８の地震が起きた。高さ１５ｍの津波が到来。現地と連絡がとれず、現地に行く交通も遮断されている。２団としてどのような対応を取るか。
「えー、そこまで考えるの？　どうすればいいかな」

危機管理の準備の答えは色々あります。色々なレベルの危機もあります。
２年前から、安全対策マニュアルを作成し、ＨＰに掲載しています。また、各隊で事故発生対応訓練を実施してきました。実施した隊と実施していない隊があります。その中である隊では事故が発生しました。
団は、訓練していたお陰で落ち着いて対応が出来たと思います。事故には様々な種類があり、訓練の内容とは同じことは起きないでしょう。でも、基本的な知識と体験で柔軟に行動することができます。

危機管理の準備は、マニュアルの整備、毎年の訓練を継続して進めることが重要です。また、日常の活動の中で危機管理の体制を実施していることも重要です。とりあえず、今できることは活動に取り入れたいですね。団会議や団委員会で議論します。

１．隊集会の解散の確認

計画された解散時間を守ることは当然なことです。事例のように２時間過ぎてやっと帰着していないことに気付くのはどうかと思います。しかし、様々な条件で気付くのが遅くなってしまうことはあり得ますね。この対策としては、帰着が確認できる体制だと思います。

・各隊で帰着連絡を団メールで流す。これは、各隊の中だけで実施していたら、団委員長にはわからないからです。マスコミが自宅に押し掛けてから知るのでは、管理されていることになりません。団委員長は、帰着時間を把握していますから、帰着連絡がなければ、隊長に連絡します。そこで、連絡が出来ない状態であれば、事故が発生したと認識できます。

「そこまでしなくていいじゃない」と私も思います。でも、今日はこんな活動をしたんだよと団内に知らせる効果もあります。「無事に帰ってきてよかった」と全員が安心できます。２団は、安全対策をきちんと実施しているよと自覚できます。これを通じて、危機管理意識を高めたり、持続する効果があります。

２．実施計画書を確認できる

団会議では、実施計画書や報告書をＷｅｂサイトに保存しています。指導者は全員アクセスできます。これは誰もが見られるようにしたいですね。私は、自宅にいればすぐに見られますが、外にいたら見れないことを改善しないといけないです。セキュリティ上は問題ですが、資料のアドレスを入力すると誰でも見ることができます。

３．緊急時の対応策、団内、地区への報告、指示ルート及び連絡先リストの整備

事故発生対応の報告、指示ルートの資料は各隊で準備ができています。これを一部のメンバーだけでなく、全員でみられるような仕掛けを準備したいと考えます。